



こまえをこまげる

こまごなNEWS

Vol.9
2017年12月29日
発行号

発行：責任編集
狛江市岩戸北3-18-8-701
狛江で分かりやすい
政治を伝える会



勝手に／

発表！2017年 狛江市パブリックスペース系 3大ニュース！

写真は、多摩川のどんど焼き
2018年は1月14日(日)に開催されます。



公共の広場

や公開空地、いわゆる公共空間を住民のために利活用する動きが全国に広がっています。思い起こしてみますと、昔の子供たちは家の近くの道端や公園で、思いっきり歓声を上げて遊んでいました。だるまさんが転んだ！、缶けりや三角ベース等で時間が経つのを忘れて遊んでいると、やがて夕方のチャイムの音が聞こえてきます。すると、子どもたちは名残惜しそうに「また、あしたね！」と友達に別れを告げ、家路へ急いだものでした。まちが子供たちの遊び場でした。

そんな子供たちも狛江市で大人になり、狛江市に移られてきた方も大勢いらっしゃいます。我々大人世代の責任として、子度たちに借金をなるべく残さないようにする財政規律が求められます。こんな時代には発想の転換が必要となります。今までのようにハコものを作るという考え方だけではなく、**今ある公共空間の規制を取っ払うことで、市民の皆さんが自由に使いこなせるような場所にならないか？**そんなことを考えています。

2017年、狛江市にも公共空間を利活用していくような新しい動きが見られるようになりました。独断と偏見にはなりますが、狛江市内の「パブリックスペース系」3大ニュースを発表いたします！



狛江駅北口

三角地広場の整備開始

狛江駅前三角地は、20年ほど前に完了した小田急線連続立体化による狛江駅北口地区再開発事業の未利用地として残り、これまで暫定利用されてきました。現在、進められている整備工事は年度内に終了し、新年度4月からは「にぎわいを創出する広場」と位置づけられ、多様な用途で利用できる広場として生まれ変わります。特徴としては、様々な形での利活用を想定し、電源を多様な形で供給できるよう植栽スペースにコンセントが4箇所設置され、ベンチは、広場スペース確保のために取り外し可能な仕様となる予定です。



私は9月の議会にて「屋外公有地である駅前広場に公民館的な機能が持たせられないか」という質問を致しました。勿論、屋外ならではの課題はありますが、密閉された会議室以外、駅前広場のような屋外でもテーブルや椅子等があれば、もっと市民の方に利活用していただける可能性があると考えたからです。解決しなくてはいけない問題は山積ですが、今までと同じような年に数回程度の催し物開催といった稼働状況では、整備をした意味があまりないと思います。

市民の方にもっと自由に使っていただくためには、何が必要なのか？オープン後も引き続き追いかけていきます。



多摩川河川敷で ドッグラン試験運用

本年5月27日からの試験運用として、多摩川河川敷にドッグランがオープンしました。先日の大雨で一旦休止になったり、要望が多かったベンチを新たに設置したり、試行錯誤の運用がされています。法律上は多摩川は国土交通省が管理し、狛江市が専有使用しているわけですが、全国的にもこうした河川をはじめとする水辺を活用していく流れが加速しつつあります。

このドッグランは、夕方には多くの方が集まり、コミュニティの役割も果たしているようです。もっと、狛江を代表する多摩川を節度を保ちながらも親しめるようになればいいと思います。



川の家プロジェクトが ソトノバアワード大賞

民間の有志団体「コマエカラー」さんが仕掛けたタマリバ（タマガワリバーフェスティバル）とソトカワダのプロジェクトがソトノバアワード大賞（全国一位）を受賞しました。この賞は、ソト（屋外）空間全般を対象として、全国から集まった利活用事例のコンテストです。

この10月にたくさんの行政事例を押しつけ、見事に狛江市民発のプロジェクトが受賞されました。おめでとうございます！

今年も1年間ありがとうございました。
皆様、良いお年をお迎えください。

完全無所属の狛江市議会議員 三宅まこと

